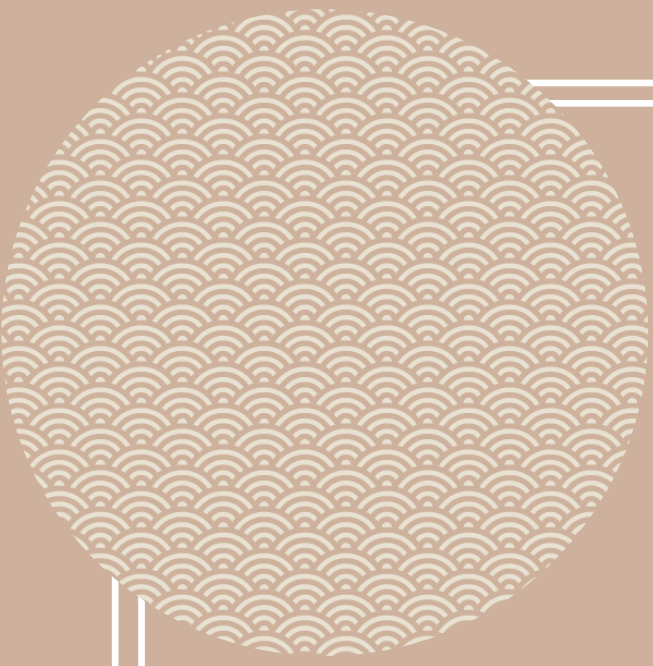
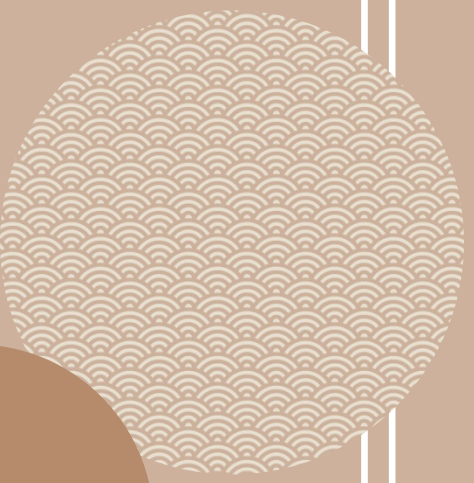




第 1 章

基本構想



1 内子町の目指す将来像

町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち

内子町は、平成 17（2005）年の合併以後、「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」を掲げ、まちづくりに取り組んできました。

50 年以上続く歴史的町並みの保存運動は、内子町のまちづくりの原点であり、地方における価値観の転換や、国内はもとより、海外との交流の扉を開くことにもつながりました。さらに内子町の基幹産業である農業とその営みが作り出す農村景観「村並み」の美しさ、小田深山をはじめとした自然環境・森林資源「山並み」の大切さ、尊さに目を向け、今も多様な魅力を創出し続けています。

第 3 期総合計画においても、内子町の「らしさ」であり「誇り」である「町並み、村並み、山並み」が美しく、持続的に発展するまちを目指す将来像として掲げ、まちづくりを進めていきます。



2 行動理念

歴史にのぞみ、未来をひらく

「歴史」とは、先人たちが今の内子町を形作るための行動の積み重ねであり、懸命に生きてきた証です。各種アンケート調査等からも、内子町の歴史や伝統文化、自然の豊かさに誇りを持っている住民は多く、今まで目指してきたまちづくりの根幹は継承すべきことといえます。

その「歴史」に「のぞむ」とは、敬意を表して振り返る「望む」、向き合い、ときに挑戦する「臨む」、未来への道しるべを見出す「希む」などの意味を込めています。

そして「未来」を「ひらく」とは、「歴史」をベースに今を生きる私たちがつくる「未来」に対し、これまでのまちづくりの質を高める、さらに極めていく「拓く」、また多様な社会変化の中で柔軟性をもって築いていく「拓く」、可能性を広げ、世界をも視野にグローバルに生きる「開く」、などの意味を込めています。

3 基本視点

(1) 「内子らしさ」を次世代へつなぐ

中学生へのアンケートでは、内子町の町並み・歴史や伝統文化、自然の豊かさに誇りをもっている生徒が多く、また、20歳のアンケートでは、約85%が内子町に愛着があると回答しています。住民アンケートにおいても「住み続けたい理由」については、「内子町に愛着があるから」「自然環境に恵まれているから」「果物や野菜などのおいしい食べ物が豊富にあるから」が約半数を超えています。また、同アンケートの分析結果から、満足度が最も高い項目は「内子らしい景観の保全」、次いで「ごみゼロに向けた分別と再利用の仕組み構築」となっています。

これらのことから、今までのまちづくりの成果は、住民にとって誇りとして認識されており、「内子らしさ」をシビックプライド^{※7}として今後も育んで行くことが必要です。そのためにこれまで掲げてきた「町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち」及び「キラリと光るエコロジータウン内子」を継承していきます。

⁷ シビックプライド：地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、地域社会に貢献する意識を指す言葉。

(2) 人々が健やかに育ち「幸せ」に暮らす

住民アンケートによると「生活するうえでの困り事や不安」に対し、「病院や診療所が遠いこと」次いで「台風や集中豪雨、地震などの災害」が上位を占めています。また同アンケートの分析結果では、「子育て支援の充実」は満足度・重要度がともに高く、子育て世代を対象としたワークショップでは「病児保育の必要性」や「学童保育の延長」、「子どもの遊び場の必要性」など、近年の社会情勢を反映した特に共働き世帯の意向が顕著に現れました。

一方で内子町をPRするために「〇〇なまち」と表現するとしたらどのような言葉が良いかという問いの分析結果では、「自然」「風景」「歴史」「文化」はもとより、「豊かさ」「癒す」「人情」などに関連するワードを選択した住民が多くいました。

まちの持続的な発展のために、子どもたちが健やかに生まれ育ち、住民がお互い支え合いながら誰もが幸せに暮らせる地域社会をつくっていくとともに、住む人の心の豊かさを大切に育むまちづくりが必要といえます。

(3) 「ひと」を結び産業の賑わいを生む

住民アンケートの分析結果において重要度が高いものの満足度が低い項目は、「労働力の確保」、次いで「買い物・交通対策」や「地域産業の担い手の育成」が挙げられています。まちづくりへの自由意見についての分析では、「移住者」「若者」「観光客」「高齢者」などの人材に関連するワードが多く抽出されていました。また産業分野の住民ワークショップで行った課題の洗い出しでは、「担い手・人材不足」「農林業の後継者問題」等こちらも人材に関する意見が多くありました。一方、20歳のアンケートでは「帰りたい（住み続けたい）」が50%で、その内「帰りたい（住み続けたい）」が、帰れない（住み続けられない）」の回答が15.4%で、その理由には仕事のことが大半を占めました。

持続可能な発展のためには、「産業の賑わい」が不可欠です。これまでの地域資源を生かした取組を引き継ぎつつ、新たな手法の導入・展開による収益増や、事業承継や起業・創業などによる新たな人材の確保、また交流人口・関係人口の増加、ひいては地域経済の活性化や魅力向上など、好循環につなげていくことが重要です。

4 人口ビジョン

(1) 内子町人口ビジョンの位置づけ

内子町人口ビジョンは、内子町における人口の現状分析や推移から、今後目指すべき将来の人口についての展望を提示するものです。

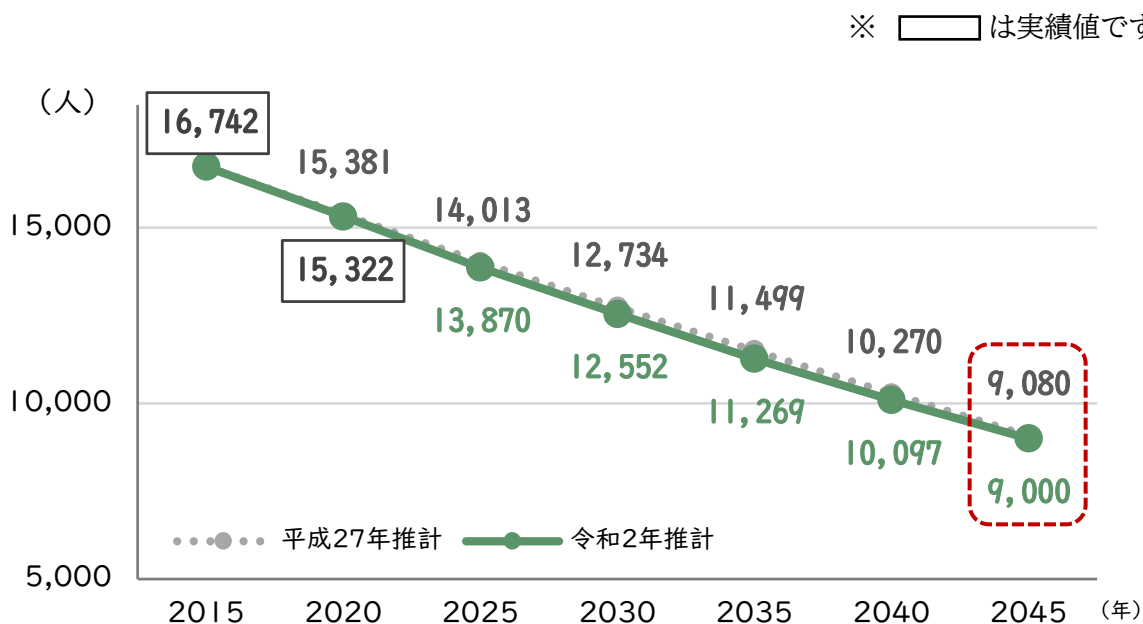
これは、「まち・ひと・しごと創生法」の施行を受け、国の長期ビジョン及び総合戦略を勘案した「内子町まち・ひと・しごと創生総合戦略」としても、効果的な施策を検討する上での重要な基礎データとなります。

「まち・ひと・しごと」とは、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立させ、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻すという意味が込められています。

(2) 内子町の将来人口推計

本町は、令和2（2020）年国勢調査を基に国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が発表した推計値では、2045年には9,000人になることが想定されています。5年前の平成27（2015）年推計値は9,080人であり、そこから大きな減少は見られなかったことから、一定の自然減・社会減の抑制は図ることができていると推察されます。

【人口推計の比較】



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

(3) 年齢3区分別人口推計の比較

先述のグラフ「人口推計の比較」の令和2（2020）年の人口をみると、令和2（2020）年実績値は15,322人で、平成27（2015）年推計値15,381人と比較すると微減となっていました。

これを年齢3区分別にみると、令和2（2020）年の老年人口は、平成27（2015）年推計値より132人減少していますが、年少人口と生産年齢人口はそれぞれ5人、60人の増加がみられます。

今後は、年少人口、老年人口が平成27（2015）年の推計を下回っていくため、総人口は減少する見込みですが、生産年齢人口は回復の兆しがみられます。

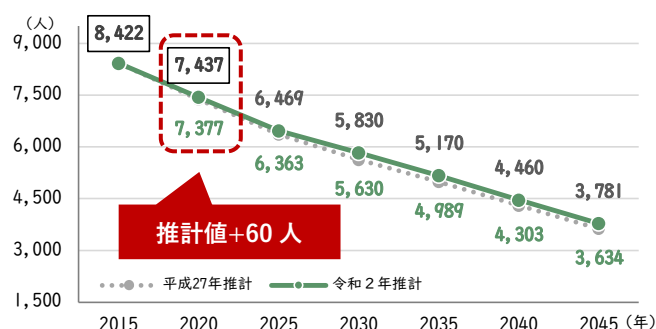
【平成27年、令和2年社人研 実績及び推計の比較】

※ は実績値です。

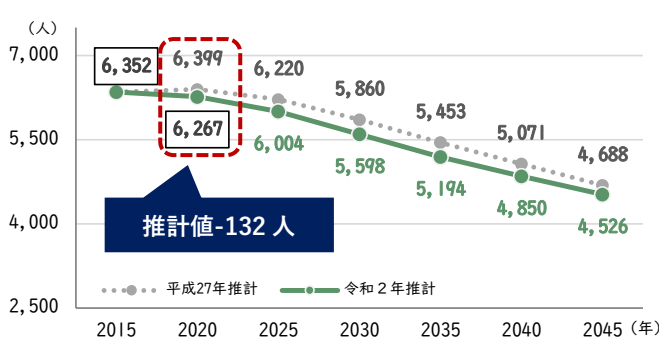
年少人口



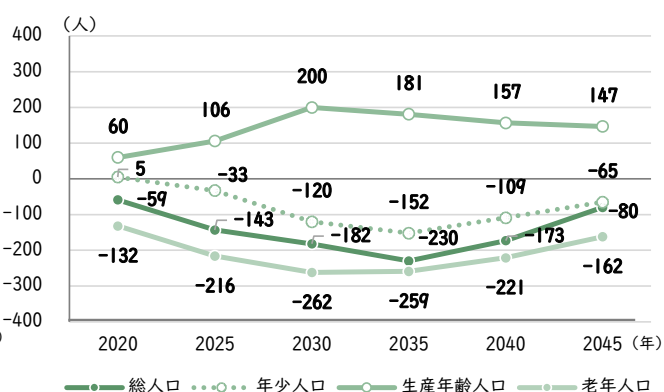
生産年齢人口



老年人口



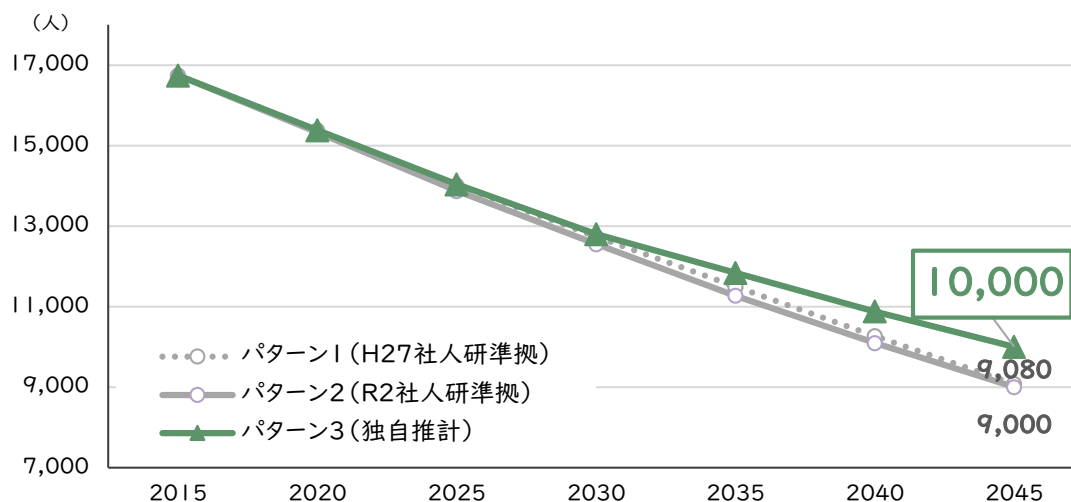
H27 と R2 推計の差



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
※年齢階級別の外国人数が非公表となる場合や年齢不詳者がある場合は、年齢階級毎の合計と総数が一致しないことがあります。

(4) 内子町の人口ビジョンと今後の方向性

内子町は、上記を踏まえた人口ビジョンとして、社人研が令和2（2020）年国勢調査を基に出した推計値から1,000人増の2045年に10,000人を目指します。



【出典】総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

内子町の人口の現状分析や今後の推計から、以下の特徴が読み取れます。目標達成に向けて取り組むべき施策については、

● 前回策定時と比較して生産年齢人口に回復の兆しがみられることから、自然増減＜社会増減に向けた施策が必要

● 特に、女性や進学などで町外へ転出する若者へのアプローチが必要

となっています。先述の基本視点（１）～（３）に加えて、人口減少対策の観点として重点的に取り組みます。

5 基本目標

I ひとづくり

まちづくりの根底には、その地に住む“人”が紡いできた想いや意志があります。先人たちが懸命に生きてきた証が今の内子町の形となっています。それらを後世につなぎ続けてこそまちづくりです。

「ひとづくり」では、子育て支援の充実、ふるさと教育をはじめとした郷土愛を育む教育の推進、国際社会で生きぬく人材の育成、生涯にわたって多様な学ぶ機会の創出・提供などについて取り組み、先人の想いや意思を受け継ぎ、つなぎ、この先のまちを創る人材を育み続けるまちを目指します。

II 生業づくり

内子町の産業は、農業、林業、商工業が中心です。しかし、人口減少や高齢化の影響を受け、どの分野においても担い手不足や人材不足に悩まされています。

「生業づくり」では、事業承継、新規就農、新規就業などの担い手確保に取り組み、町産品の魅力発信を含めた販路拡大、プロモーションや教育などの啓発事業の充実、新たなビジネス機会の創出を図り、本町の中心産業である農林商工業の賑わいが好循環を生むまちを目指します。

III 魅力づくり

内子町のまちづくりは、町並み保存運動に始まり、やがて村並み保存、山並み保全へと広がりをみせました。

「魅力づくり」では、「内子らしさ」の根幹となる歴史・伝統文化、自然、景観など歴史的資源を生かしたまちづくり活動の促進と、国際的視野を有した担い手の確保を図るとともに、それらを強みとした観光について、新たな観光資源の発掘、二次交通の整備や国内外への情報発信など、内子らしく磨き上げ、内子に住む人も、訪れる人も魅力を実感できるまちを目指します。

IV 暮らしづくり

人口減少が続く中、内子町が将来にわたって活力あるまちとして発展していくためには、年齢に関係なく本町に住み続けたい・住んでみたいと感じられる環境、実際に住み続けられる環境を整備することが重要です。

「暮らしづくり」では、自治会を中心とした地域コミュニティ、担い手となり得る移住促進、環境基本計画を軸とした環境への取り組み、道路、水道、公共交通、木造住宅の耐震化などのインフラ整備、デジタル変革を活用した利便性の向上など、まちの土台となる環境をしっかりと整備し、誰もが豊かに住み続けられるまちを目指します。

V 安心づくり

医療従事者の高齢化や人口減少により、地域医療体制の弱体化や介護や福祉に従事する担い手不足も懸念されています。また、今後発生が予測されている南海トラフ巨大地震をはじめ、異常気象により頻発する水害などは、当たり前の日常を脅かします。

「安心づくり」では、福祉の充実や健康意識の向上、医療体制の整備、地域防災力の強化、有事における体制づくりなどに取り組み、子どもから高齢者まで健やかに安心して暮らすことができるまちを目指します。

6 体系図

【目指す将来像】

町並み、村並み、山並みが美しい持続的に発展するまち

【行動理念】

歴史にのぞみ、未来をひらく

基本視点	基本目標	基本目標の分野テーマ
①「内子らしさ」を次世代へつなぐ ②人々が健やかに育ち「幸せ」に暮らす ③「ひと」を結び産業の賑わいを生む	I ひとづくり	1 次世代が希望をもてるまち 2 故郷を愛する心や社会を生きぬく力を育むまち 3 生涯を通して多様な学びのあるまち
	II 生業づくり	1 農の可能性に自信のもてるまち 2 農・食の掛け算で魅力を生むまち 3 森林の循環を生業とするまち 4 今と未来をつなぎ稼ぐ力をつけるまち
	III 魅力づくり	1 心通う旅に出会うまち 2 「うちこ」の魅力を発信できるまち 3 「内子らしさ」を守り育て、未来へつなぐまち
	IV 暮らしづくり	1 愛着をもって地域で共生できるまち 2 人を惹きつける住み続けたいまち 3 エコロジータウンの歩みを止めない1人1人が考え、行動するまち 4 豊かな暮らしの基盤を築くまち 5 ミライへのイノベーション、DXで地域をつなぐまち
	V 安心づくり	1 誰もが役割をもち活躍できるまち 2 健康で安心して暮らせるまち 3 みんなで守り、誰一人取り残さないまち